

News Letter

CONTENTS

- p2 — ●Pick up NPO
 特定非営利活動法人 劇団スターキャスト
 特定非営利活動法人 南会津はりゅう里の会
- p4 — ●NPO×企業＝社会課題の解決へ
 ～協働のためのマッチング事業、始めます!～
 特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会
 特定非営利活動法人 表郷ボランティアネットワーク
 特定非営利活動法人 会津地域連携センター
- p7 — ●NPO×若者＝復興!! チャレンジインターンシップ
- p8 — ●NPOのマネジバ
 ●助成金情報

Vol. 1
2017.7.31



福島県内のNPO法人の現状と ふくしま地域活動団体サポートセンターの 活動内容について

●福島県のNPO法人の現状

県内のNPO法人数は平成29年6月末現在909法人となっています。震災以降、平成24年度に初めて年間設立数が100件を超え、それ以後も復興に向けた活動や様々な地域活動を行うNPO法人が着実に増加しています(図1参照)。これは、震災を経て、社会がより複雑化・個別化する中で、行政の手が行き届かない課題に対応できるNPOに対して注目と関心が集まったものと思われま

す。NPO法人の皆様の地域に寄り添ったきめ細かな活動は、本県の復興に向け大きな役割を果たしており、今後更なる活躍が期待されておりますが、他方で多くのNPO法人が、安定的な収入基盤の確立及び新規事業の立ち上げ等に課題を抱えております。

●ふくしま地域活動団体サポートセンターの活動内容

県では、県内のNPO法人が自立的かつ継続的な活動を行っていくための支援として、「ふくしま地域活動団体サポートセンター」を設置しております。

同センターではNPO活動全般に関する相談窓

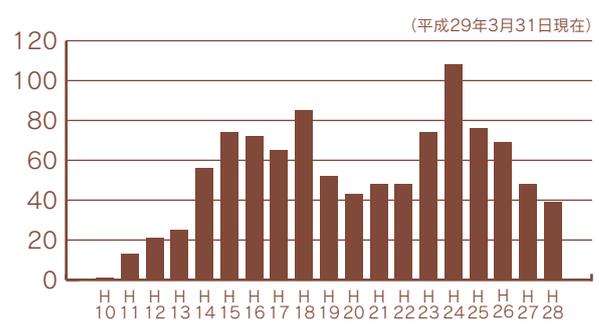
口を開設するとともに、会計・ファンドレイジング(資金調達)研修や、横の繋がりを深めるための情報交換会の開催などNPO法人の運営力強化に向けた支援を行っております。

日頃の活動でお困り・お悩みごとなどありましたら、「ふくしま地域活動団体サポートセンター」まで、気軽に御相談ください。

福島県文化振興課

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/>

(図1) 福島県内における年度別NPO法人認証状況



各年度におけるNPO法人設立数(4月～3月)



地域に根ざし、様々な社会的課題を解決するために元気に活動している NPO 法人をご紹介します

特定非営利活動法人

劇団スターキャスト **いわき市**



演劇の力で、元気!勇気!やる気!を届けたい

特定非営利活動法人劇団スターキャストは平成29年1月にいわき市に設立された新しい団体です。

理事長の星陽一さんは東京で30年以上劇団活動をおこなっていましたが「若者の育成・雇用創出をしたい」と地元いわき市へ戻り、そこで活動されているNPO法人の方のアドバイスをもとに法人を立ち上げました。



星 陽一理事長

劇団の公演は短期間でも、リハーサルは最低2ヶ月に及び、そのための準備に人手も資金も必要になります。「NPO法人格を取得したことで周囲の信頼を得て資金調達できた」と星さんはおっしゃいます。実際、公演会場費のために、今年5月に挑戦したクラウドファンディング「FAAVO 磐城国」(<https://faavo.jp/iwakinokuni>)では、演劇の力で、元気!勇気!やる気!を届けたいとの気持ちで資金調達をおこない、無事目標の金額を達成することができました。また、星さんは理事長としてNPO法人の運営をおこないながら、舞台の脚本も手掛けご自身も出演をされています。内容はいわき市にちなんだものを多く取り上

げ、そこに登場する役名も平、泉、内郷など地元愛にあふれています。

活動を続けていくことは大変なこともあります。上演後のお客様の笑顔や拍手が自身や出演者の次へのモチベーションにつながり、よい作品を生み出す力になっています。

今後は地元いわき市勿来町に県内外からのファンを受け入れられるシアターを作ること、全国をまわり福島に特定非営利活動法人劇団スターキャストの存在を知っていただくことで、福島県やいわき市に人々の思いや力を集めることを目指します。



練習風景

「人材」は「人財」。「人は財産」と星さんは力強くおっしゃいます。

活動をとおして人を育てる、人を集めることを丁寧におこない、福島県の人材育成・まちづくりに尽力していきます。



公演案内パンフレット

特定非営利活動法人

南会津はりゅう里の会 **南会津町**



香りをつかって地元ならではの生み出す!

特定非営利活動法人南会津はりゅう里の会は、南会津針生地区の活性化を目指し地元の有志8名が任意団体として活動をはじめ、2013年にNPO法人格を取得しました。

かつて、麻の干場だった場所に建てたことから「ホシッパの家」と呼ばれ、地域の方々に愛されています。現在は、衰退していますが古くは林業が盛んな地域だったこともあり、「建築」、「家具」、「おもちゃ」、「アロマ」など、木材の専門チームを立ち上げ、地域資源を最大限に活用しています。

実際、ホシッパの家も集落内の工務店の方が建設したコミュニティスペースです。24



集落内の工務店がつくった「ホシッパの家」

時間365日オープンを目指

としており、南会津を研究の場とする、都心の大学のゼミナールなども多く利用しています。年間の利用者は約1800名。地域の憩いの場でもあるホシッパの家は現代に合った居場所としての役割も担っています。

「冬は雪が多く苦労もあるけど、ここでいろいろな人に会えることが活動をしていくうえで力になります」と、事務局の星さんはおっしゃいます。

現在はホシッパの家の運営の他、イベントをきっかけに知り合った東京の会社と協力しながら、NPOとして「アロマ」の生産にかかわっていま

す。現在は南会津地域原産の「クロモジ」「ニオイコブシ」の2種類。「日本の香りを広めたい」とオリジナルの機械を使うなど工夫をこらして製造

しています。毎年7月開催しているアロマ祭りは、今年で3回目となり、ハンドトリートメントやスプレーづくりなど多くの方に楽しんでいただけるイベントとして定着しそうです。



「クロモジ」と「ニオイコブシ」を原料としたアロマオイル



はりゅうの里イベントの様子

南会津針生地区を「知る人ぞ知る」とし、活動に共感してくれる人を増やしたいと事務局の渡邊さんは話します。「針生ならではの」を生み出しながら、特定非営利活動法人はりゅう里の会の活動はこれからも続いていきます。

NPO × 企業 = 社会課題の解決へ

～協働のためのマッチング事業、始めます!～

今更ですが、「協働」とは、複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することで、NPOと企業との協働は、NPOの専門性や地域ネットワークと、企業の技術や資源を組み合わせることができ、今まで個々にはできなかった「社会課題の解決」が実現できる可能性が生まれます。また企業側も、「現場の声が聴ける」「社会貢献で社員のモチベーションが上がる」「NPOの新発想で社内イノベーションが刺激される」など様々なメリットが考えられます。

今年度、ふくしま地域活動団体サポートセンターでは、「NPO、企業、学生との連携・協力事業」を実施します。県内のNPOと企業とが協働しやすい環境を整えるため、ニーズを調査し、相互理解のうえで協働事業に結びつけるためのマッチングの場を創ります。

今回は、今年3月に実施した「NPOと企業の協働事業アンケート」の中から、県内で既に実施されている3つの協働事例を紹介し、今後のこの事業の取り組み方について考えていきます。

協働事例1 協働のテーマ「納豆菌を使った有機的肥料の開発」

●協働の主体

NPO 特定非営利活動法人 **がんばろう福島、農業者等の会**(二本松市新生町)

福島第一原発事故等を要因とする風評被害等に立ち向かいながら、安全でおいしい福島県産農林水産物や加工品を全国の消費者にお届けすることを目的として活動している。

URL <http://www.farm-n.jp/fukushimafarmers/>
TEL 0243-24-1001

企業 株式会社JMC(郡山市菜根)

異物混入防止・異物除去・異物成分分析の専門企業。

URL <http://www.jmc-japan.com/mag/>
TEL 024-983-6735

●協働の内容

農地を有機的な方法で除染できないかと思案していたところ、(株)JMCと出会い、国の研究機関の助言を得ながら納豆菌による水田の除染を実施。その後、納豆菌が、安全でおいしい農産物を産出することに着目。さまざまな納豆菌を培養、製品化。また、農業現場から出る植物残さなどの有機物と混合・発酵させ「納豆菌混合の有機的肥料」の製品化も目指している。

●協働についてのアドバイス・コメント

特定非営利活動法人 **がんばろう福島、農業者等の会** 理事長 **齊藤 登さん**

常に「やりたいこと」を発信し続けることです。そうすれば、いろいろな出会いを活かすことができ、また周りから紹介されて新しく出会う機会も増えます。そのための準備として、やりたいことを常に明確にしておくことが大切です。協働という堅苦しい枠



をはじめにはめてしまわないこと。始まりは人対人です。まずお互いの信頼関係を築くことです。あと企業との協働は、こちら側のことばかりではなく協働する相手のメリットも考えてビジネス的な思考で、提案することも必要です。

株式会社JMC 代表取締役 **佐藤雅人さん**

協働することでは、お互いの守備範囲をはじめにしっかりと決めておくことが大切です。あとはお互いの進むべきベクトルが同じ方向を向いているか常に確認することです。エンドユーザーと生産側の顔の見える関係をどんどん繋いでいきたいです。

協働事例2 協働のテーマ「JRバス『白棚線』を活用した地域活性化」

●協働の主体

NPO 特定非営利活動法人 **表郷ボランティアネットワーク**(白河市表郷)

白河市表郷地域で「生まれてきてよかった、住んでいてよかった地域づくり」をめざして、災害福祉・環境・文化交流の3分野で活動している。

URL <http://omotego.wixsite.com/omotego>
TEL 080-5557-7072

企業 ジェイアールバス関東株式会社 **白河支店**(白河市白坂)

JR東日本グループで、福島県内では白河～棚倉間の一般路線バスおよび一部貸切バスを運行している。

URL http://www.jrbuskanto.co.jp/office/tohoku_w.html
TEL 0248-24-0489

●協働の内容

地域の公共の足でもあるJRバス「白棚線」(白河～棚倉)を活用して、沿線にかかしの展示やフォトコンテスト、地元PRカレンダー作成、イベントでのラッピングバス展示など、沿線の魅力を発信し、地域の認知度の向上と誘客を図っている。

●協働についてのアドバイス・コメント



特定非営利活動法人 **表郷ボランティアネットワーク** 理事長 **沼田浩一さん**

理事 **藤田敦子さん**

協働は企業にまずNPOの活動を知っていただくことが大切だと感じました。

最初は小さくできることから始めて、徐々に信頼していただけるよう心がけています。企業とNPOの両者を結びキーパーソンを把握しておく、お互いに安心して話がしやすくなると思います。相手の負担にならないように毎回提案の仕方にも気をつけています。



ジェイアールバス関東株式会社 白河支店長 **藤岡孝二さん**

今年「白棚線」が60周年ということもあり、この協働事業のおかげであちこちで「白棚線」を取り上げていただくことも増え、利用客アップへと繋がっています。現在は、相互信頼の上で協働事業を進めていますが、当初は、異分野でもあるNPOの活動内容がわかりづらく、協働事業への判断に困りました。WEBだけでなく、もっといろいろな媒体でNPOが情報を発信し、企業がそれを受け取る仕組みがあれば良いと思います。



◀レトロバス

協働事例3 協働のテーマ「会津観光再興キャンペーンの実施」

●協働の主体

NPO 特定非営利活動法人 **会津地域連携センター**(会津若松市馬場町)

全国の地域づくり団体・NPO法人との連携交流を図り、また、地域と地域間の交流をサポートするために地域やセクターを越えた広域的な交流連携活動を行っている。

URL <http://bekomon.com>
TEL 0242-22-3633

企業 株式会社エフエム会津(会津若松市栄町)

昨年開局20周年を迎えた会津地域のコミュニティFMラジオ局(76.2MHz)。

URL <http://fmaizu.com>
TEL 0242-28-0565

●協働の内容

毎年9月に開催される「会津まつり」の際に、観光PRキャンペーンとして、会津地域連携センターが受託運営している「あいづ広域観光情報センターいらんしょ。」内にFM愛'sのサテライトスタジオを設置して番組を制作し、祭りの中継とともに「いらんしょ。」が提供する会津地域の情報を放送した。

(次ページへ続く)

●協働についてのアドバイス・コメント

特定非営利活動法人
会津地域連携センター
理事長 稲生孝之さん



当団体は会津「まちの駅」の事務局をやっている、普段から「協働」ということをあまり意識せず、会員同士が情報交換しながら協力して事業を行っています。協力連携するには、ネットワークの中で会員が情報を常に発信する流れを作り、それを皆が共有することが重要です。それといたに明確に共通の目標を示せるかを大切にしています。企業との協働で気をつけることは、企業の利益を無視しない提案をすることです。また、地域が利益を生む仕組みを作れるようにNPOの意識を少し変えることも必要だと実感しています。

株式会社エフエム会津
制作部ディレクター
二ノ宮慎哉さん



今回の協働事業は、当FM局が「まちの駅」の一員であることで実現したことなので、特別に協働ということ意識せず、スムーズに事業を進めることができました。当方のメリットは、会津広域の情報提供を受けることができたことで、逆に皆さんには当方の情報発信力を提供できたと考えています。協働のポイントは、簡単なことですが「快く引き受ける」というところだと思います。そのためには相互の信頼が大切です。



▲ あいづ広域観光情報センター iらんしよ。外観



▲ iらんしよ。内部

まとめ

3つの協働事例からいえることは、企業側に圧倒的にNPOの情報不足しているというところで、裏を返せば、NPO側が企業に対して十分な情報発信をしていないということです。この部分がクリアできれば、協働に一番必要なお互いの信頼関係を築き、事業の実現に一步近づけることができると言えます。また、社会課題の解決という一つの目標に向かってお互いのメリットを明確に示すことのできる提案ができるか否かが、重要な鍵となるでしょう。これらのことを踏まえて今後、ふくしま地域活動団体サポートセンターでは、NPOと企業の協働マッチング事業を順次進めていきたいと考えています。

この事業の詳細につきましては、決まり次第、サポセンHPやFacebookに掲載いたします。

HP <http://f-saposen.jp/>

Facebook <https://facebook.com/f.saposen/>

NPO × 若者 = 復興!!

平成29年度NPO強化を通じた定着・地域活性化事業「チャレンジインターンシップ」今年も始まる!!



福島県内在住あるいは県出身の大学生・高校生・専門学校生が、県内のNPO法人に、夏休み期間の1週間から10日間インターンとして入りその活動を学ぶ「チャレンジインターンシップ」。

この事業を通して、福島への復興に貢献し、福島への愛着心を育て、若者の福島県内への定着を目指します。

3年目となる今年は、49名の若者がインターンとして活動中ですが、そのインターンを受入れる21のNPO法人からこの事業に対する意気込みを、ひとこと語っていただきました。

1 特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会

「新しい農業」を目指して活動しています。何が「新しいのか?」をぜひ体験して感じてください。

2 NPO法人 DASH

DASHでの体験を通し、皆さんが若さと活気をぶつけ、子供達に明日へのエネルギーと夢を育んでもらえることを期待します。

3 特定非営利活動法人 りょうぜん里山がっこう

地元出身のインターンのみなさんに、10日間地域の良さ、地域の人のつながりをしっかりと学んでいただけるようにお話ししたいと思います。

4 特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ

いいざかで多様な活動をしているNPOです。分からないことがあれば気軽に聞いてください。

5 特定非営利活動法人 チームふくしま

インターンを受入れることで、私たち自身も学ばせていただき、福島への復興に繋がっていきたくです。

18 特定非営利活動法人 劇団スターキャスト

「夢・感動・魔法」をテーマに福島県の若いエネルギーを借り、世界に「勇気・元気・やる気」を届けたい!

19 特定非営利活動法人 よつくらぶ

若い方々とともに考え行動することで、これまでの我々の取り組み(仕事)にもいい意味での変化を期待しています。

20 特定非営利活動法人 Global Mission Japan

グローバルな視点をもって地域の復興と発展に、共に貢献できることを期待します。

21 特定非営利活動法人 いわき緊急サポートセンター

一昨年のインターン活動で学校からも感謝のお言葉をいただきました。今年度のインターンにも期待しています。

15 特定非営利活動法人 ふよう士2100

インターンの若い力で子どもたちの秘めた才能が開くことを願っています。

16 特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

子どもの社会参画を支援しながら、インターンが地域のなかで何が出来るか?「つくりあう学び」を一緒に考えたい。

17 特定非営利活動法人 市民活動支援組織NIVO

新たなジャンルへの挑戦・若い力と面白いアイデアで新しい風を吹かせてくれることを期待します。

6 特定非営利活動法人 プロジェクトFUKUSHIMA

プロジェクトをおもしろくするには若者のみなさんの元気やアイデアが必要です。一緒に福島をおもしろくしましょう!

7 特定非営利活動法人 福島就労支援センター

若い方と活動することで、団体が活気づくことを期待します。共に成長できる時間にしたいです。

8 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

当団体での活動を通して社会課題を理解し、インターンの皆さんの自己成長の機会に繋がることを期待しています!

9 認定NPO法人 キャリア・デザイナーズ

新しいアイデアの積極的な提言を期待しています。そして、たくさん経験を積んでいただきたいです。

10 特定非営利活動法人 ぴいかあぶら

私たちの想いに共感していただける「なかま」が増えていくことを期待しています。

11 NPO法人 ホールアース研究所

学生さんも社会を支えている一員。上下関係ではなく、同じ目線に立って福島の未来を考えていきましょう!

12 特定非営利活動法人 FUKUSHIMA いのちの水

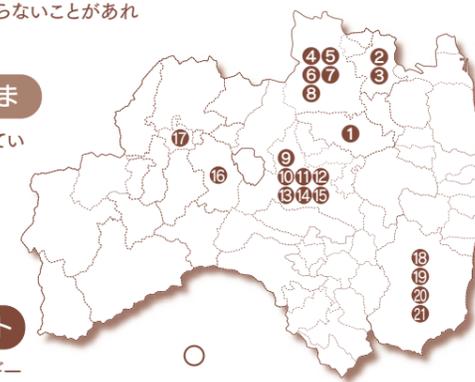
福島県のために働きたいと思っている方々と働けることを嬉しく思います。一緒に福島に愛を届けましょう。

13 特定非営利活動法人 あんだんて

子供達とインターンと一緒に活動する姿から子供達の振り返りができ新しい気づき生まれることを期待しています。

14 特定非営利活動法人 コースター

短い期間で全ての事業を体験するのは難しいと思いますが、少しでもインターンの学びにつながるような時間になればと思います。



「チャレンジインターンシップ」ウェブサイト

<http://f-intern.f-saposen.jp/>

に活動の様子を順次掲載していきます。ぜひご覧ください!



チャレンジインターンシップ動画
昨年活動のようすは、こちら



NPOのマナビバ



ふくしま地域活動団体サポートセンターで今年度これから実施予定のNPO講座です。組織の育成やスタッフのスキルアップのためにぜひご参加ください。詳細については、内容が決まり次第、サポセンのHP (<http://f-saposen.jp/>) やFacebook (<https://www.facebook.com/f.saposen/>) に掲載します。

NPOのためのSNS講座

- 日時 8月30日(水) 13:30 ~ 15:30
- 会場 郡山市市民交流プラザ第3会議室(ビッグアイ7階)
- 講師 久野雅己氏(株式会社ソーシャルスピーカー 代表取締役)

NPOの広報ツールのひとつとして定着しているFacebookについて基本的な設定法を学ぶとともに、参加者が自団体のFacebook等に関する疑問を持ち寄り、講師がその問題解決法を解説します。

NPOの運営講座(仮称)

- 日時 10月予定
- 会場 いわき方面を予定

NPOマネジメント基礎とファシリテーションのワークをとおして「どうすれば組織基盤が強化できるか」「団体の抱える課題をどうすれば解決できるか」など探ります。

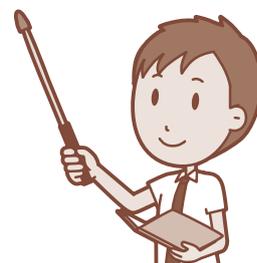
NPOのファンドレイジング講座

- 日時 11月7日(火)(予定)
- 会場 会津若松市ピカリンホール(予定)
- 講師 山崎庸貴氏(一般社団法人ふくしま連携復興センター 理事)

NPOの重要な課題の一つである資金調達について、東北でも3本の指に入る認定ファンドレイザーの山崎庸貴氏にお話しいただきます。講座終了後、参加NPOどうしの交流会も予定しています。

NPO法人の報告書の作成と法務局への登記のための講座(仮称)

- 日時 12月予定
- 年度末の事業報告書作成時期に慌てないように正しい報告書の書き方と、事業変更の際の法務局への登記の仕方を勉強します。



また今年度は、並行して<NPO、企業、学生との連携・協力事業>でも、「自分たちの活動をわかりやすく伝えるためのプレゼン講座」を企画中です。こちらも内容が決まり次第、サポセンHPやFacebookに掲載します。

助成金情報

チャレンジしてみよう!



NPO関連の助成金情報については当センターのホームページをご覧ください。【URL】<http://f-saposen.jp/category/subsidy/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課
運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階
TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741
E-mail saposen@f-npo.jp URL <http://www.f-saposen.jp>

- ◆県内の認証 NPO 法人団体 / 909 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体 / 2 団体
 - ◆認定 NPO 法人団体 / 18 団体
- 平成 29 年 6 月 30 日現在

編集後記

新体制の県サポセンです。よろしく!【後藤】
取材にて、福島を広さ、再確認!!【野地】
サポセン勤務2年目。昨年よりパワーアップしたい!【櫻井】
新スタッフの青柳です。よろしくお願ひします。【青柳】
暑中お見舞い申し上げます。紫外線対策は怠りなく!【渡部】
かき氷を食べてクールダウン!【河野】